



令和8年4月1日

## 令和8年度 学校経営方針

江戸川区立二之江中学校  
校長 千野 裕司

### ～はじめに～

「夢と希望」を育み、「いま」「ここ」で頑張る生徒を全力で応援します。自分の母校となる二之江中学校を愛し、誇りをもたせ、自分のことにとどまらず、学校のため人のために頑張る生徒を育成したいと考えています。

「江戸川区で一番の心のこもったあいさつのできる学校」を昨年度から継続し目指します。ぜひ教職員の皆さんの、率先した心のこもったあいさつを通して、生徒が安心安全に生活できる空間を二之江中学校の中にさらに広げていきたいと考えています。

指導に関してですが、指示型を貫く指導をすれば、その人の言うことに従い誰もものを言わなくなります。そんな組織、集団ほど脆弱なものはありませんし、教職員はもちろん、子どもたちの将来へ向けた主体性は育ちません。学習から学びへ、チームティーチングからコーチングへ、ティーチャーからファシリテーターへと変わってきています。学習、生活指導、すべての教育活動において「考えさせる指導」「待つ指導」を念頭に置き、失敗を恐れず挑戦できる生徒を育てましょう。自分の経験に基づいた指導ばかりをするのではなく、情報を常に更新しながら我々教職員自身が新しい挑戦をしていく姿勢をもちましょう。

また、学校は私たち教職員が幸せでいることが大事です。教職員が元気でやる気に満ちていれば、教育活動は充実し、子どもたちに良い影響を与えます。逆に、教職員が疲弊して元気をなくせば、その影響は悪い形で子どもたちに及びます。もちろん、「子どもたちを幸せにする」ことが最終目的ではありますが、そのためにも「教職員が幸せであること」が大事です。素敵な学校を作るのは生徒です。そして素敵な生徒を作るのは、教職員です。勤務時間外は自分の趣味の時間や大切な家族や仲間との時間に使ってほしいと思っています。そんな温かい空気感の中で生徒の健全育成を日々進めていきたいというのが校長としての願いです。

### 1 二之江中学校の教育目標

「いま」「ここ」で頑張る生徒を育てる。

《具体的な目標》

○健康で心豊かな人    ○自ら学び実行する人    ○協力し合い責任をもつ人

## 2 学校経営の基本理念

本校は東京都の推進する「主体的・対話的で深い学び」および「探究的な学び」を基盤に、アントレプレナーシップの視点を活かした教育活動を推進する。生徒一人ひとりが、自ら考え、判断し、行動しながら、他者と協働し、よりよい未来を切り拓く力を育む学校づくりを目指す。

## 3 目指す生徒像

- 自主自立した自分の想いを、多様な表現方法で表現できる生徒
- 心のこもったあいさつができ、よく考え、人の気持ちを大切にできる生徒
- 力強く夢を語り、失敗を恐れず、前向きに歩み続ける生徒

## 4 目指す教職員像

- 自らの仕事に誇りをもったプロ意識の高い教職員
- 教職員が学び続ける姿勢を示し「自らの後ろ姿」で指導ができる教職員
- 生徒の考えや行動を尊重し、任せ、見守る姿勢を大切にでき、結果だけでなく過程や努力を評価する視点をもった教職員

## 5 今年度の重点目標

### (1)主体的・対話的で探究的な学びの充実

- 各教科において、生徒が自ら問いをもち、考え、対話し、表現する学習過程を重視する。
- 探究的な課題や、思考、判断、表現する学習を通して、主体性を育成する。
- 生徒相互の信頼関係に基づく学び合い、高め合いが学力の向上に直結するという信念のもと教職員が研修を深め、生徒の学力向上を目指す。
- 年3回の全体研究会と年5回の授業研究会(計8回)を実施し、各教科での課題解決能力を育てる活動を取り入れた授業を行うための校内研修を通して、全教員が生徒の学びに向かう態度を見極める目を養い、誰一人取り残さない授業を追究する。

### (2)アントレプレナーシップの育成

- 学校生活全般を通して、課題発見、課題解決の過程を大切にし、試行錯誤や失敗を学びにつなげる指導を行う。
- 総合的な学習の時間や行事を通して、探究のプロセスを重視する。

### (3)豊かな人間関係と安心できる学校づくり

- 週番活動や日常のあいさつ活動を重視し、自分から率先しておこなう気持ちの良いあいさつを通して、温かな空気感のある学校づくりを進め、互いに認め合う学校風土を全教職員で推進する。
- 生徒同士、教職員と生徒、その他保護者、地域、来校者に対して「心のこもったあいさつ」「返

事」「丁寧な言葉遣い」を心がけ、愛される、応援される学校づくりを進める。

- 「考えさせる生活指導」、「考えさせる授業」等すべての教育活動において「考えさせる」指導の充実を図り、適切な選択のできる生徒の育成を図る。
- 「自立」と「主体性」を基盤に、生徒が安心して挑戦できる学級・学校運営を進める。
- 運動会や合唱コンクールの学校行事では、準備段階から本気で取り組ませ、「感動・感激」体験から母校愛を醸成する取組を全学級・学年で進める。
- 日常の教育活動や面談、および各部会や種運営チームを活用し、生徒一人ひとりの不安や悩みの把握に努める。また、SC、SSW、特別支援教室専門員、巡回指導員と十分に連携し、丁寧できめ細かな指導を組織的に進める。
- 「考え、議論する道徳」を通して、自他の違いを認め、相手を尊重する思いやりの心情を基盤に  
①チャレンジ精神②コミュニケーション能力③判断力・選択能力を指導の重点として育成する。

#### (4)教職員の提案型を重視した「新たな発想の実現」を推進

- 前年踏襲ではなく、生徒にとって学校にとって良いと思われるものは、他の教職員と連携および共有を図りながら、積極的に提案できる職場の雰囲気醸成する。
- 年齢や経験だけが重要なのではない。経験の浅い教員や、若手教員からの良いと思われる提案には、主幹教諭、主任教諭が後押しをして積極的な提案を形にする努力をし、その実現を図る。
- 会議で決まった決定事項については、それに向けて全力で取り組む組織体の実現を図る。

#### (5)令和8年度コミュニティスクールの推進

- 年6回の学校運営協議会を実施し、学校運営について地域の協力者の方々に広く知ってもらい、メンバーが一人の職員として携わっていくような組織づくりを行い、教職員と連携を図りながら学校運営の改善と教育の質の向上を図る。
- 地域やその他から幅広く人材を確保し、生徒が本物に触れる機会を創出する。
- 民生児童委員に協力していただいている3年生の面接指導練習を継続実施していき、そこに学校運営協議会のメンバーを加え、地域の方にも生徒の様子について理解していただくとともに、生徒のキャリアアップの一助となるような取り組みを推進する。

#### 6 二之江中学校の教職員として実践すること

- 一人で抱えず、チームで対応すること。(情報の共有 風通しの良い職場づくり)
- 生徒に指導することは自らもきちんとすること。(プロの教職員としての自覚)
- 会議で決まったことは進んで全力で取り組むこと。
- 前年踏襲ではなく、生徒の実態を見て工夫、改善をして積極的に提案すること。
- 関わるすべてにおいて誠実に丁寧に対応すること。(生徒、教職員、地域、保護者、来校者)
- 電話対応は、最初に出た教職員が学校の顔となる。自分の名前を伝え丁寧に対応すること。

- 健康が第一。効率の良い仕事、必要な休暇をきちんと取ることを大事にすること。
- 服務事故を絶対に起こさないこと。(個々のプロ意識と風通しの良い職場づくり)
- 生徒を認め励まし、自分の所属している場所が好きになるように指導すること。

#### 7 生徒の「よい見本」として実践すること

- 笑顔で率先してあいさつすること。(生徒、教職員、地域、保護者、来校者)
- 相手の良いところを見つけきちんと認めること。
- TPOに応じた身だしなみや言動をとること。
- 話しかけられたら、作業をやめ、話し手の方に体と視線を向けること。
- 失敗したら素直に謝ること。
- 誠実、丁寧な言葉遣いを心がけること。生徒への声掛け呼び方にも適切に行うこと。

## 特別支援学級

社会的自立を目指し、人とのかかわりの中で心豊かな生活を営む力を育む。

≪具体的な目標≫

- 身辺生活の確立と処理
  - 豊かな心の育成
  - 基礎的な学力の定着
  - 体力づくり
  - コミュニケーション能力の育成
- (1) 生徒の実態と保護者のニーズを考慮して個別の指導計画を作成する。学期ごとに個々の生徒の学習の進捗や状況を検証し、方向性の確認をする。
  - (2) 日常生活において、「言葉遣い」「あいさつ」「時間を守る」「身だしなみ」など、自己の責任を果たすなど、生きていく上で必要な態度を身につける。
  - (3) 各種行事において、「感動・感激」体験を味わわせ、自己有用感や達成感を育む活動を取り入れる。
  - (4) 全教育活動を通して、キャリア教育を推進し、社会的・職業的自立を促し、自らの生き方について考えさせる。
  - (5) 通常学級との交流学习を進め、積極的な関わりを通して、卒業後に社会的自立ができるようにする。
  - (6) 生涯スポーツを意識し、基礎的な体力を身につけ、生涯に渡って健康で安全な生活を送れる基盤を身につける。
  - (7) 礼儀とマナー指導を徹底し、自他を尊重し、望ましい人間関係を築く意欲と態度を養う中で、コミュニケーション能力を身につける。

## アントレプレナーシップについて(学校経営方針における位置づけ)

本校では、これからの社会を生きる生徒に必要な力として、「アントレプレナーシップ」を重視していきます。

アントレプレナーシップとは、直訳すると「起業家精神」ですが、二之江中学校では、起業することそのものを目的とするわけではありません。

私たちが育てたいアントレプレナーシップとは、日頃の身の回りの課題や違和感に気づき、自ら考え、判断し、行動し、失敗から学びながら良い解決を目指そうとする姿勢や力です。

これは、特別な教科や活動だけで育つものではなく、日々の授業、学級経営、行事、委員会活動、部活動など学校生活全体を通して育まれるものです。

例えば、

- 生徒が自分たちで対話の中で人の意見を聞き合い、方法を選択する場面を意図的に設けること。
- 探究的な課題に取り組ませ、考えた理由や過程を大切にすること。
- 失敗や試行錯誤を否定せず、次につなげる指導を行うこと。

こうした日常の積み重ねが、アントレプレナーシップの育成につながります。

また、教職員一人ひとりのかかわり方も重要です。生徒の挑戦を「任せてみる」「待ってみる」姿勢、そして結果だけでなく過程を評価する視点を、学校全体で共有していきたいと考えています。本校の学校経営においては、「自立」と「主体性」を基盤に、挑戦する生徒を育てる学校を目指します。アントレプレナーシップの育成は、その中核になる考え方です。教職員の皆さんと共通理解を図りながら、日々の教育活動の中で、着実に具現化していきたいと考えています。

しかしこの考え方は、現在も先生方が自立を考え日常行っている指導であります。特に特別支援学級では、日々、生徒の社会的自立を念頭に置いて指導しています。決して新しい考えではありません。より育てたい生徒像を意識して、指導の実践につなげていけたらと考えています。

### 【アントレプレナーシップの概要】

- ① 二之江中学校におけるアントレプレナーシップとは、起業そのものを目的とするのではなく、課題に気づき、自ら考え、判断し、行動し、よりよい解決を目指そうとする姿勢や力を指す。
- ② 生徒が主体的に学び、失敗や試行錯誤を通じて成長することを大切にすること。
- ③ 授業、学級活動、行事、委員会活動、部活動など、学校生活全体を通して育成する力として位置付ける。
- ④ 探究的な課題に取り組ませ、考えた過程を重視する指導を行う。
- ⑤ 生徒の挑戦を支え、任せ、見守る姿勢を教職員が共有し、自立と主体性を育む学校づくりを進める。

## 学校経営方針・校内研究との結びつき(校内研究とアントレプレナーシップとの関連)

- ① 本校の校内研究は、東京都が推進する主体的・対話的で深い学びおよび探究的な学びの具現化を目指すものであり、その中核にアントレプレナーシップの育成を位置付ける。
- ② 校内研究を通して育成を目指す力は、生徒が自ら問いをもち、考え、対話し、行動を振り返りながら学びを深めていく力であり、これはアントレプレナーシップの考え方と重なる。(今までも研究しているPBL(大問)の考え方)
- ③ 各教科の授業改善においては、学習課題の設定や発問の工夫により、生徒が「自分事」として学習に取り組む場面を意図的に創出する。
- ④ 協働的な学びや対話を通して、多様な考え方に触れ、自分の考えを修正・深化させる過程を重視する。
- ⑤ 生徒の試行錯誤や失敗を学びの過程として捉え、振り返りを通して次の学びや行動につなげる指導を行う。
- ⑥ 校内研究で培った指導の視点を、授業のみならず学級経営や学校行事にも活かし、主体的に挑戦する生徒の育成を学校全体で進める。

## 令和8年度校内研究

### 【テーマ】

例 「主体的に考え、仲間の想いを聞き合い、未来に向かって歩む生徒の育成」  
～アントレプレナーシップの視点を活かした授業改善を通して～

### 【研究の方向性】

本校の校内研究では、アントレプレナーシップの考え方を基盤に、主体的・対話的で探究的な学びの充実を図り、次のような生徒の育成を目指す。

一つ目は、「自主自立した自分の想いを、多様な表現方法で表現できる生徒」である。学習や生活の中で自ら考え、判断し、その考えをお互いに聞き合い対話する経験を重ねることで、主体性と表現力を育てる。

二つ目は「心のこもったあいさつができ、よく考え、人の気持ちを大切にできる生徒」である。対話や協働的な学びを通して、多様な考え方や立場に触れ、相手を思いやる態度や社会性を育む。

三つめは、「力強く夢を語り、失敗を恐れず、前向きに歩み続ける生徒」である。探究的な学びや朝礼の場面において、試行錯誤や振り返りを大切にし、未来に向かって行動し続ける力を育成する。

本校の校内研究は、これら三つの生徒像を実現するために、授業改善を核としながら、学校生活全体を通してアントレプレナーシップの育成を図る。